



1998.12

TIA ニュース THE VOICE

編集・発行 財団法人高松市国際交流協会

TIA ニュース・THE VOICEには、高松市の国際交流に関する声をまとめていきます。

No. 13



事業報告

- ★第6回 高松国際交流青年のつどい
- ★フルブライトメモリアル基金
アメリカ人教師来高
- ★外国人のど自慢大会
- ★フランス理解サロン
- ★フィリピン・日本クロスカルチャーのつどい

事業報告

- ★国際交流おどり子連
- ★かがわ国際交流フェア
- ★フランス宮廷音楽合奏団
アンサンブル・フィリドール高松公演
- ★リサイクル品提供コーナー



- ★行政研修生、一高招へい教師来高
- ★高松市内国際交流団体紹介(香川日独協会)
- ★Information
- ★編集後記

Index



第6回 高松国際交流青年のつどい

主催：第6回高松国際交流青年のつどい実行委員会 共催：(財)高松市国際交流協会 (社)高松青年会議所

第6回高松国際交流青年のつどいが8月9日(日)に香川県民ホールで開催されました。
今回は「国際都市高松の創造」というテーマで三部構成で行われました。

第一部 基調講演

テーマ 循環・共生思想による地球文明の創造
—目覚め・自立・共生・知足—

第二部 高松国際交流討論会

テーマ 未来の国際都市「TAKAMATSU」の
創造<高松が今、創造しい>

カラモジア国際交流の方程式

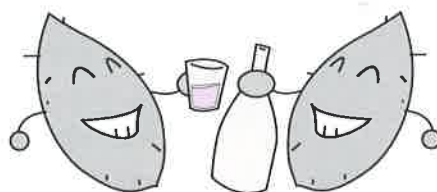
(義理+人情+芋づる)+飲んだ焼酎の本数



講師

加藤 憲一氏

鹿児島県出身。昭和57年以来、毎年地域と世界を結ぶからいも交流を主宰。現在はメコン河流域の環境と開発をテーマに「メコン共生計画」を推進中。また国連と提携して飢餓、貧困、地球環境等の問題に取り組み、循環型農林業システムを導入してアフリカの再生をめざす。



カラモジア交流

- A 地球人の育成
- B NPOによる循環型社会の実現
- C 食・農・環境：域内循環システムの確立
- D アジア・アフリカとの共生・連帯
- E 組織
- F 情報ネットワーク

第一部 基調講演 (Key Note Speech)

PEOPLEとPEOPLE

実は交流というのは、なあなあ、まあまあじゃなく、ぶつかりあいなんです。私が、からいも交流で学んだのは衝突、つまり異文化衝突です。留学生が持ってくるいろんな習慣、個性的な考え方、価値観、それがぶつかって火花が散れば散るほど、すごい交流です。ぶつかりあわないと理解は進みません。

さて、日本人はどうでしょうか？ 日本社会はムラ国家なんです。日本というのは日本という島国だけで一つの文明です。日本は中国からいろんなものを学びましたが、中華文明圏には入っていません。日本は日本なんです。文明が独特の発展をしてきました。日本の場合は、ある時期何かをもらうと、ぱっと閉めてしまうんですね。そして、そこで自分化してしまう。これは世界でも非常に珍しいことです。そういう特性をもっています。実はそのことが国際化の時代にあうのか、あわないのか、という問題が出てくるのです。そこで、鹿児島の村で実験すると、さっきみたいなおじいちゃんがイスラムの学生に焼酎を飲ましてしまう。そういうぶつかりあいが、もっともっとあれば、村の中にも自分の考えを持った、個性的な人がでてきます。ぶつかるためには、火花を散らすためには、何が一番大切かという、自分というものがなければだめなんです。からいも交流は、いままでなあなあで、違う意見があるとその考えはおかしいと村八分にしていた人たちの考え方をだんだん変えていくんです。そして良い考えを持っている人は交流をすることによって伸びていきます。つまりぶつかりあうことによって、個性をもった人たちがでてくるんです。そして、それが相互理解に進んでいく。相互理解が進むと人間はみんな一緒だという人間愛といいますかね、人間は一緒だという、そりゃあもう自分たちは戦争もできないよ、助けあってどうにかやっていきたいと言う本当の愛が生まれてきます。そして、やがてこれが人類はこれから共に生きていくという共生の考えを産んでいくんです。

～熱のこもった話しの一部より(抜粋)～

パネリストからのワンポイントアドバイス (抜粋)

第二部 高松国際交流討論会



津森 明

元四国新聞常務
高松市歴史民俗協会副会長

外国の文化を理解する前に、自国の文化を理解する必要がある。

あなたの宗教は、と問われて答えられる人がいない。仏教とただだけではあいまい。顕教、密教、浄土宗、などに分かれている。そして重層信仰。異文化を理解していなくても自文化を理解していれば、異文化理解につながる。

もっと自文化を理解したベースの上で交流したら、面白い交流ができる。そして国際交流の前に、国内の交流。近隣の交流、近所の交流が良くなっていけば、国際交流は活性化する。



G. J. ペイジ

ランゲージハウス代表

国際化と国際交流は違う。国際化とは世界のルールを統一してお互いに協力すること。国際交流はコミュニケーション。ルールをお互いにつくるため、理解するため、価値観を伝えるために必要です。ただ、国際交流だけで平和になると思ったら甘い考え方。ヨーロッパではずーっと交流しているけど、平気で戦争している。交流で戦争が止まるわけでない。ルールが必要。

井原 理代

香川大学経済学部教授

これからは、異民族とつきあわなくてはいけない時代、あいまいではこの世界は生きていけない。歴史、文化の保存などを通して、地域特性を徹底的に追及、ものの交流はスペシャリゼーション化する、人の交流はゼネラリゼーション化する。もの、地域づくり、など広い意味の文化は差別化し、

人の交流は非差別化、柔らかな交流が必要。国際交流も、単なるお付き合いから脱皮して、本当の国際交流に入らなくてはいけない。



加藤 憲一

KARAMOSIA International 代表

日本人のあいまいさが、国際交流をしていく上で大きな問題になってきている。何を考えているか、理解できなかつたら戦争になる。殺しあい。何を考えているのかわからない国の経済力が大きかったら、世界が不安になる。もっと、自分の考えを打ち出して、めりはりのきいた考えをだしていかなかったら世界には通用しない。自分の意見をだせるような教育のあり方、社会のあり方、組織の運営のしかたを考えていく必要がある。



コーディネーター

古川 康造

高松JCシニア

◀写真前列 左から
鄭 美蘭 (韓国)
程 憲国 (中国)
ジャン・クリストフ エラリー (フランス)



第三部 INTERNATIONAL SUNSET PARTY

第3部は、約16カ国500人以上の参加者が集まり、Mr.ヒューさんの司会で、カナダ、バングラデッシュ、フィリピン、中国など在住外国人のパフォーマンスで盛り上がった後、Mother Ship の演奏で、楽しい国際交流の夜になりました。実行委員長の三浦さん、スタッフの皆様、お疲れさまでした。



1998年 今年も フルブライトメモリアル基金国際交流 Fulbright Memorial Fund (米国人教師団 来高!)

フルブライト・メモリアル基金「教育者招聘プログラム」は、故フルブライト米上院議員の提唱したフルブライト計画が50周年を迎えたことを記念してアメリカの初等・中等教育及び教育関係者に、日本の教育制度と文化を体験してもらえよう、日本政府が新たに設立した人物交流プログラムです。日本の教育関係者、児童、生徒、各地域の人々と交流を通じて、理解と友好を深めることを目的としています。

本年も、10月11日(日)から19日(月)までの9日間、全米各地(19州)から20人の先生たちが高松に滞在し、香川大学、香大附属坂出小学校、高松市立女木小学校、高松市立木太中学校、高松第一高等学校を訪問し、直接授業に触れ、先生や生徒たちと交流を深めました。



The Takamatsu International Organization is doing an excellent job in promoting your city. We feel welcome in your office and your resources well invaluable.

Thank you so much for everything you and your city did for us. You opened your homes and hearts to us which we will never forget.

Valerie Aldridge from Georgia

Takamatsu changed my life. And now I am changing the lives of others. If I serve others the way I was served tea, I discover true happiness. If I think of the words and music of the song of Sakura I learned, I discover real peace. If I give of myself without reservation, the way I had to when I climbed to the highest shrine on Mt. Konpira, I discover the purpose for which my life was given to me.

"A ship in the harbor is safe": so was I before Takamatsu. "But, that's not what ships are built for": neither was I. There is only one place I'd rather be than here on the Mexican border where I live and work: that place is Takamatsu. There is only one family I'd rather spend my summer vacation with : my family in Takamatsu. Yashima Mountain, Megi Island, the Ujikes, the 88 temples, Kotohira, all the schools and museums, friends and family closer than most of my own friends and family – my perfect place would be Takamatsu.

John Etheridge from Texas

米国教員来高

女木小学校
10/13
(火)



県営棧橋から船に乗って訪れた女木小学校では、鬼太鼓での大歓迎をうけました。

全校児童とそろって給食を食べ、体育館では、竹馬、こままわし、お手玉等の日本の遊びを体験しました。

アメリカ人教師と市民のつどい



本トーク
音

10/15
(木)



約50名の市民とフルブライトの先生による、日米本音トーク。教育のあり方、親子の関係、家庭での夫婦の役割、いじめの問題など、多岐にわたって、率直に両国の事情について英語で意見交換をしました。

ドキドキのホームステイ体験 10月17日~18日

このたびのFMFホームステイプログラムでは、たいへん楽しく有意義な機会を与えていただき感謝しております。

私たちも昔からの親友のように、いろいろなことを深く話し合うことができて、お互いに相手から学ぶことがたくさんあったねと話しました。文化や自分自身を見つめ直す素晴らしいきっかけとなりました。

(葛原様談)

Mr. スコットは、親日家で日本の文化伝統にとっても興味をお持ちでした。短い期間でしたが強烈な印象を残して帰られました。これでよかったかしら…と思うばかりです。出会えてよかったと思います。

(小橋様談)

「あれも見せてあげたい！ これも見せてあげたい！」と、目のまわるような2日間でしたが、普段ばらばらに生活しがちな家族の一人ひとりが、彼女を中心に自然と団結して協力しあい、親戚や友だちまでもが力を貸してくれ、本当の意味で一つになれたような気がします。「まだ、やり残したことや、行けなかった場所があるってことは、きっともう一度ここに来るチャンスがあるってことだね。」と再会の約束をしました。

(川西様談)



ほか18家族のご協力を得て、ホームステイを通して国際交流をしました。



高松一高
10/14
(木)

高松一高では、姉妹都市・米国フロリダ州セント・ピーターズバーグ市からの招へい教師ジェニー ディビスさんによるTeam Teachingの授業を見学し、その後書道も体験しました。

先生方とは現場の教育指導、生活指導について、白熱した意見交換がされました。



木太中学校
10/15
(木)



木太中学校では、多くの生徒とふれあいました。音楽の授業では、飛び入りでジョンさんがピアノを伴奏してみんなで歌を歌いました。家庭科の授業では、一緒にゼリーづくりに参加。

また、給食の後、かたづけにも参加して、牛乳パックをたたむことを英語で説明して交流しました。

—FMFフルブライト・メモリアル基金教員プログラムの可能性—

このプログラムの最大の魅力は、学校訪問、ホームステイ、本音トークなどを通じて、延べ400人近くの高松市民がアメリカ人の現場の先生と直接触れあい、交流することができることです。日本の教育システムを理解し、日本の文化を学びたいというアメリカ人の先生方の意欲には驚くほどのものがあります。

このプログラムから始まった交流は素晴らしい可能性を秘めており、これが更に発展すれば、例えばインターネットを通しての交流や、テレビ会議を使っの日本本音トーク、生徒同士の絵画交流などにつながります。

TIAでは、このプログラムをきっかけに高松を知ってもらったアメリカの先生方と、市民のみなさんの間に芽生えた友情が、21世紀の高松の国際化の推進につながっていくことを期待しています。

♪外国人のど自慢大会♪

7月5日(日)に香川県社会福祉総合センターで日本の歌を通して在住外国人に日本の心を理解してもらう外国人のど自慢大会を開催しました。

今年は、マレーシア、フィリピン、インドネシア、中国など8カ国からの留学生と研修生が、日本のポップスや演歌を熱唱しました。



→最優秀賞をとったマリーサラバルさん

主催/(財)高松市国際交流協会

- | | |
|-----------|--|
| 最優秀賞 | マリーサ ラバルさん (フィリピン)
『あなたの空を飛びたい』 |
| 優秀賞 | 程 憲国さん (中国)
『昴』
大谷 ノリータさん (フィリピン)
『花』 |
| 特別賞 | マイケル フッドさん (アメリカ)
『なごり雪』
趙 昌民さん (中国)
『星影のワルツ』 |
| ライオンズクラブ賞 | ロスイラさん (マレーシア)
『PRIDE』 |



フランス理解サロン

6月21日(日)に、高松市女性センターでフランス理解サロンを行いました。ゲストスピーカーは、香川県国際交流員のジャン・クリストフ エラリーさんと、姉妹都市トゥール市からの香川大学留学生のナディーヌ ダグネンさん。映像や音楽を使って古いフランスと現代のフランス事情について、話していただきました。

フィリピン&日本クロスカルチャーのつどい

今年フィリピンがスペインから独立して100周年。TIAでは、7月26日(日)に、日本文化体験講座の一環としてフィリピン・日本クロスカルチャーのつどいを開催し、お互いの文化を紹介、体験しました。



Phil-Ja Friends(かがわフィリピン-日本友の会)のみなさんが運営に協力してくれました。



国際交流おどり子連

8月14日(金)、高松まつりに今年も国際交流おどり子連が参加しました。今回の参加者、日本人70人外国人66人の合計136人は、夜の中央通りを楽しくねり踊りました。

今年も参加してくださった方、お手伝いいただいた方、どうもありがとうございました。

かがわ国際交流フェア開催

11月14日(土)、15日(日)に、かがわ国際交流フェアが開催されました。今年は「衣、食、住から世界を学ぼう」をテーマにさまざまな催し物が行なわれました。2日目のステージでは、「体験! Japanese Wedding」として、外国人のカップルに白無垢などをきてもらっての伝統的な結婚式を体験してもらいました。



リサイクル品提供コーナー

11月14日(土)、15日(日)に、かがわ国際交流フェアが開催され、当協会も例年どおりリサイクル品提供コーナーを出店しました。



フランス宮廷音楽合奏団 アンサンブル・フィリドール高松公演

高松・ツール姉妹都市提携10周年と「日本におけるフランス年」を記念して、アンサンブル・フィリドール高松公演が10月31日(土)に高松テルサで開催されました。

バロック時代の衣装を身につけ古楽器での演奏で、まるで17~18世紀のベルサイユ宮殿にいるかのように美しく優雅な雰囲気に満たされました。



友好都市からニーハオ!



陳さんと夫人

陳吉煒 (高松市役所で研修中)

私は陳吉煒と申します。南昌市から行政研修生として来ました。高松に来てもう数カ月がたち、生活にも慣れました。高松市の進んだ行政管理、発達した交通、立派な建物、美しい公園、濃厚な文化的雰囲気などは、深い感銘をあたえました。本当に都市と自然がコンパクトに融合した町だと思います。

両市市民レベルの交流がさらに進展するよう、相互理解と友情を深め、南昌市の発展に役立たせたいと思っています。(中国・南昌市)

姉妹都市からHello!

Janine Davis (高松第一高等学校で英語指導)

I am very interested in East Asian culture and I hope Japan will be part of my future. My dream is to work for the United Nations in the area of Development. Once I leave Japan, I will be attending Graduate School in California, to study International Policy/Women and Development Issues. (フロリダ州 セント・ピーターズバーグ市)



ジェニーン デイビスさん

高松市内国際交流団体紹介

高松市内には、たくさんの国際交流団体がありますが、今回は「香川日独協会」をご紹介します。

香川日独協会

香川日独協会は91年10月13日に発足しました。

現在の会員数は34法人と個人会員の188名です。94年10月にボン独日協会と姉妹協会となりました。活動内容は総会、例会、ドイツ文化理解のための講演会、ホームステイ事業、会報の発行等です。98年度は、10月~11月の間「ドイツ週間」とし、講演会、料理講習会等を開催しました。99年9月から2000年9月まで「ドイツにおける日本年」を記念する様々な事業が開催されます。

連絡先: 087-831-3091



98年10月24日(土) さめき荘で開催した講演会「ドイツの環境政策について」の講師 フィーツェ領事

ATTENTION

(財)高松市国際交流協会の e-mail アドレスができました!!

tia @ kgw.enjoy.ne.jp

皆様のVOICEをお寄せください!!!

WHAT HAPPEN at I-PAL?

1999.1.10 アイパル香川
何かが起こる!

1999 New Year's Party in I-PAL
Why Don't You Join Us?



「楽しませ隊」メンバー募集!
お祝い合わせば...
楽しい正月準備
TEL 087-837-6003
携帯 016-000-6629

「楽しませ隊」メンバー募集!
お祝い合わせば...
楽しい正月準備
TEL 087-837-6003
携帯 016-000-6629

「楽しませ隊」メンバー募集!
お祝い合わせば...
楽しい正月準備
TEL 087-837-6003
携帯 016-000-6629

2月14日(日)

春節聯歡会

中国の旧正月である春節を
一緒にお祝いしましょう。

場所: アイパル香川
主催: KUFSA, 香川県中国人留学生学友会

国際交流ボランティア大募集!

ボランティアの種類

- 1 ホームステイボランティア
- 2 ホームレスボランティア
- 3 通訳ボランティア
- 4 一般ボランティア

詳しくは、当協会まで
087-837-6003

99 ボランティアのつどい

2月28日(日) 13:00より

場所: アイパル香川
主催: (財)高松市国際交流協会

《編集後記》

世界的な異常気象のエルニーニョ現象や、不景気風が吹く中で、向井さんの宇宙からの地球市民へのメッセージは、私たちを元気にしました。世界16カ国の協力で国際宇宙ステーションも稼働し、インターネットの勢いある普及をみると、世界は確実に身近になり、宇宙地球時代を迎えました。

高松でも、80カ国からの大使の来県、米国19州の教師来高など海外の声をダイレクトに聞き学ぶ機会が増えています。今号も少しでも多くの方の声を発信できるような TIA VOICE をめざしての編集です。皆様からのご感想をお待ちしています。

m.y

1998年12月 (No.13)



Takamatsu International Association
財団法人 高松市国際交流協会

〒760-0017 香川県高松市番町一丁目11番63号
アイパル香川内
TEL (087) 837-6003
FAX (087) 837-6005

I PAL KAGAWA, 11-63 Bon-cho 1-chome
Takamatsu, Kagawa
e-mail tia @ kgw.enjoy.ne.jp